

2024年度 実施概要

2024度は、これまで連携を進めてきた宮城県内の各教育機関との関係をより一層深め、子供や高校生が参加する企画も、単発から長期に、より複合的に海への学びに接するための仕組みを作った。具体的には、宮城県水産高校、明成高校、南三陸高校などとの連携を深め、多くの高校生が海の課題を自分事として考え、取材動画などでは高校生自らリポーターとしてマイクを握り、取材をしてその課題を考える過程を放送するなど高校生との連携を広げていくことを目標とし、実行に移すことが出来た。

オリジナル体験学習イベント

「深海魚 深掘り調査隊～深海魚を調査利用して三陸沖の未来を見つけよう！～」

「深海」は200m以深の海の事で、高い水圧、太陽の光も届かず水温は2度～4度、さらに酸素も少なく、生物のエネルギー源となる有機物が少ないなど過酷な世界。そんな環境で生きる「深海生物」が暮らす深海も、プラスチックなどの海洋ごみによる環境問題の影響と無縁ではない。

今回は、石巻市で操業する「宮城県沖合底びき網漁業協同組合」、「石巻専修大」「仙台うみの杜水族館」とタッグを組み安定的な魚食の供給に向けて深海魚と未利用魚がもたらす可能性を学び、深海魚（未利用魚）などが体現する海の環境の問題を「見えた！」（わかった！）の意識変化に繋げ、三陸沖の海の未来を変えるアクションにつなげていく体験学習イベントとした。また、アウトプットは深海魚を使用した「ノロンボーガー」を制作し、地元宮城に加えて東京都内でも販売する。



視聴率

放送枠を今年度から平日午前の人気ワイド番組内に移し、放送時間も2分から5分に増枠。視聴率も2023年度に比べて世帯が0.3%⇒1.9%、個人が0.3%⇒1.0%、Fコアが0.1%⇒0.8%と大きく上昇。

海の取材動画

「海の課題を高校生が探し、調べ、伝える」というコンセプトで、南三陸高校、宮城水産高校、明成高校の生徒らが自ら取材をし調べた海の課題を発表する形でオンエア。合計30本の取材動画を放送中。

プロジェクト訴求動画

プロジェクト本体の山場に合わせた連携広報として、海ごみゼロウィーク訴求動画、海とごちそうウィーク訴求動画、海と灯台ウィーク訴求動画を各15秒計200本放送。

これまでの課題と今後の展望

課題 1

東日本大震災の強烈な経験から、豊かな海を擁しながら「海に行くことから離れていた宮城の人々に、再び海へ興味を持つきっかけを作っていくたい。

課題 2

震災による漁場への打撃をきっかけに海の仕事から離職が増え、その後も就業者人口が減少を続けている宮城では、漁業県でありながら漁業の後継者問題が深刻化している。

課題 3

「海洋熱波」ともいわれる、世界でも類を見ない海水温上昇が続く宮城県沖の実態を把握し、その対策を考える。



高校生を中心とした海の取材動画を通じて、「海を考える若者のネットワーク」を構築し、それを拡大していく。



これまで漁業に関心の薄かった若い人々と漁業者が交流を深めることにより、その後の地元定着につなげるような機会を創出するため、エリア外から海に人を呼ぶ「UMI-KOI」企画を実施する。



東北大、石巻専修大など、海洋学の専門家らと、水産業や行政との連携を促進し、県民が自分事としてとらえられるよう情報を共有。